

令和4年度 三木市特定教育・保育施設評価 目標達成計画

(園所名) 三木市立三樹幼稚園

| | |
|------------------|--|
| 観点 | ①心の育ちを優先し、生きる力の基礎を育む教育・保育 |
| 項目 | 内 容 |
| 園の現状や取組、課題 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども達は愛情に満たされて育ち、園生活を安心して送ろうとする雰囲気がある。4歳児は基本的な生活習慣の自立において、今、大事にしたい事を保護者へ伝えつつ、園の中でも自立へ向かえるように支援している子もいる。 ○ 5歳児は自分の思いや考えを表現し、物事に積極的にかかわろうとする面を活かしつつ、より粘り強く取り組む力や共感する力を育ていきたい。 ○ 4・5歳児ともに小集団だが、コロナ禍においても有意義な場面を選んでかかわりを持つことで、影響を受け合い、良い関係が構築されている。 |
| 目標 | <p>幼児期の内面の豊かさを大事に育てようとする中“主体的な学びと自治的な仲間”“想像力と共有する力”“就学以降も喜んで学び続けようとする力の育成”を目指す</p> <p>～幼児にふさわしいと考え、学びに向かう要素が散りばめられた環境による教育の中から、予測不可能な社会を生き抜く力の基盤を培う～</p> |
| 目標達成に向けた具体的な取組内容 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児が自ら楽しんで学ぶ環境による教育の中での学びについて再確認をし、幼児が自信をもって生活し、安心して物事に主体的に取り組めるような教師の支援を見極める。 ○ 幼児教育における無自覚な学びの中に、就学以降の自覚的な学びを視野にもち、幼稚園と小学校の架け橋期における繋ぎのポイントを探る。 ○ 幼児教育における学びはクラス集団の共感する力と深くかかわっている。その力を育てるために、一人ひとりの幼児理解とそれについての支援の方向性を持ち自治的な活動を促す“群れ遊び”や目には見えない心の交流を生み出す“身振り表現活動”を取り入れた保育内容を創造する。 |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 三木市特有の身振り表現や群れ遊び保育の意義を共有・実践していく中で共感力と自治的な活動における子どもの成長について再確認した。 ○ 4歳児は、子どもが楽しいと感じる環境構成と主体性の芽が出てきた時の支援の方向性を見極め、5歳児は就学以降の学びを視野に入れた具体的な活動について熟考し幼小の架け橋期における在り方を学んだ。 ○ すべての保育に関して、園内で話し合いや伝達を重ねたり、講師を招いて示唆を頂いたりし、子どもの学び・その支援の在り方・成長した姿の評価も含めて全職員での共有を目指せたことで大きな学びとなった。 |
| 評価 | <p>子どもたちの「主体性」や「仲間とのつながり」を重視するなど、目標を明確にした取組みがなされており、良い意味で三木市の幼児教育らしさが溢れた園である。また、子どもたちの発達年齢を的確にとらえ、様々な行事などの経験を通して子どもたちの成長を図った取組みがなされている。さらに、園長先生のリーダーシップの元、職員間の共通理解を大切にし、日々の保育に関するスキルアップにも前向きに取り組んでいる。</p> |